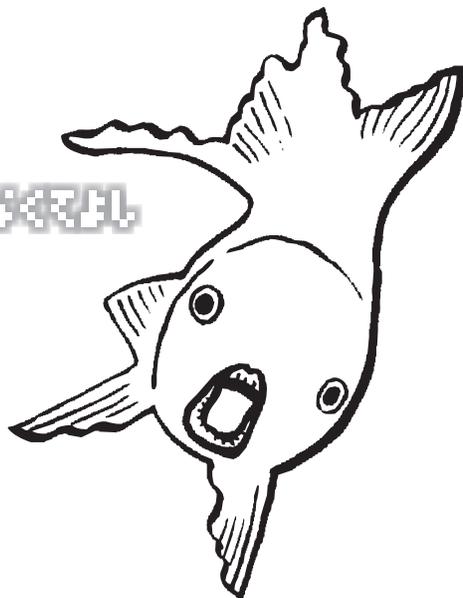


KUNITACHI OPERA

あの男は三日もお祭り



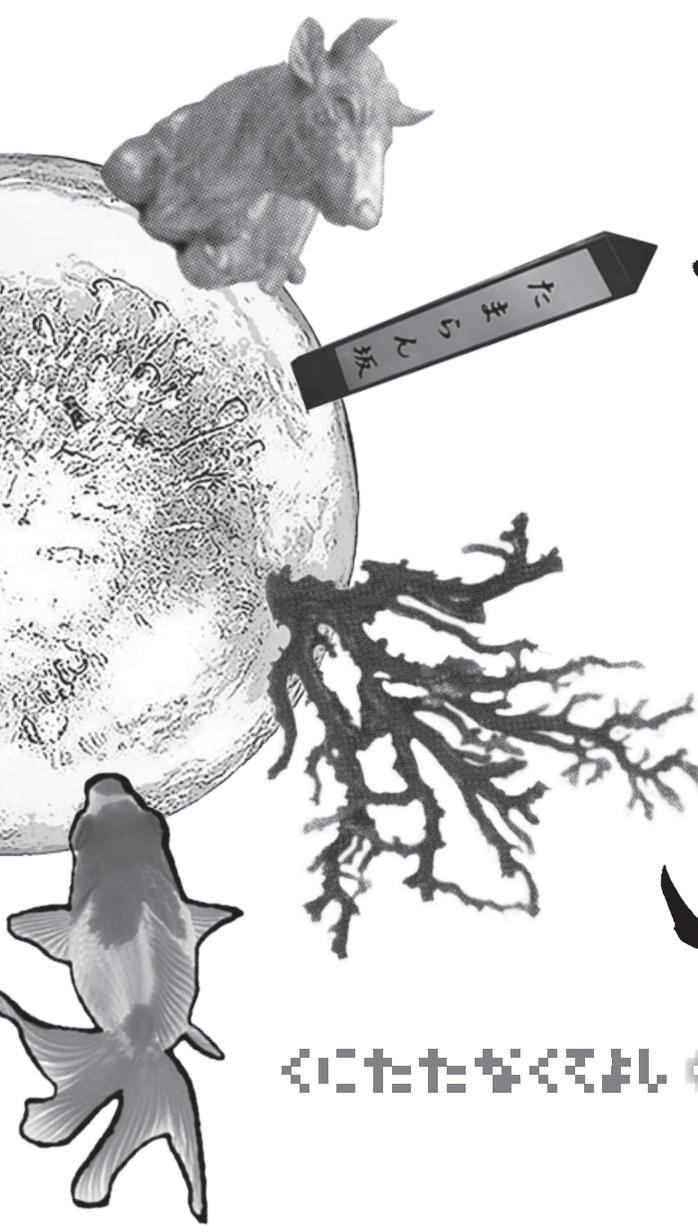
KUNITACHI

てんてんてんてん てんてんてんてん

2022.

4.30(土) 5.2(月) 5.3(火・祝)

3回公演



てんてんてんてん てんてんてんてん てんてんてんてん

てんてんてんてん てんてんてんてん てんてんてんてん

てんてんてんてん

会場：くにたち市民芸術小ホール
(東京都国立市富士見台 2-48-1)

公益財団法人 くにたち文化・スポーツ振興財団 くにたち市民芸術小ホール

ごあいさつ

小さな町の小さなホールが初めて手掛ける新作オペラ。国立市出身の作家・多和田葉子さんの書下ろし台本で市民が重要な役割を担う作品が今、この世に現れようとしています。

当ホールでは2016年から、多和田さんとの企画を進めてきました。その5回目である今年は芸術小ホールが建って35年目でもあり、市民とともに歩んできた証の一つがこのオペラに込められています。

第一線で活躍するプランナー陣、出演者、スタッフと市民の力を結集し、此処でしか創り得ない舞台をお越しいただいたお客様、これまで当ホールに関わってくださった方々へ大きな喜びとともにお届けします。

本日は新たな芸能の誕生にお立ちあいいただき、まことにありがとうございます。

くにたち市民芸術小ホール

多和田葉子 複数の私 Vol.05 + 芸小クリエイションシリーズIII

くにたちオペラ『あの町は今日もお祭り』

作 : 多和田葉子 / 作曲 : 平野一郎

演出 : 川口智子 / 振付 : 北村成美

【出演】

吉川真澄 (ソプラノ)、渡辺ゆき (メゾソプラノ)、

中嶋俊晴 (カウンターテナー)、平野太一郎 (テノール)、

奥秋大樹 (バス)、滝本直子 (俳優)、山田宗一郎 (俳優)、

北村成美 (ダンサー)

【楽隊】

池上英樹 (マリンバ・打楽器)、多久潤一郎 (フルート)、

鈴木広志 (サクソフォン)、佐藤芳明 (アコーディオン)、

西谷牧人 (チェロ)、悪原至 (打楽器)、齋藤綾乃 (打楽器)、

新野将之 (打楽器)、三神絵里子 (打楽器)

【スタッフ】

舞台監督 : 伊東龍彦 / 照明 : 横原由祐

美術 : 谷口智子 / 衣裳 : glee 岩戸洋一・本柳里美

衣裳助手 : 佐々木礼子

コーラスマスター : 谷本喜基 / コーラス指導 : 吉川真澄

稽古ピアニスト : 水戸見弥子・横山希・高山美佳

スティルト指導 : せせらぎ (古賀彰吾)

振付助手 : 定行夏海

スチル撮影 : 宮川舞子 / 動画撮影・編集 : 遠藤晶

制作 : 斉藤かおり (くにたち市民芸術小ホール)

邦楽器協力 : 茂手木潔子

パンフレット原画・題字 : 川口智子 / パンフレットデザイン : さいとう歩美

あらすじ

天満宮のお祭りの夜。遠くから聞こえてくるお囃子。「でんでこ でこでん」。その匂いに誘われ、祭りの夜にひとり迷い込んだ

クーニーが出会ったのは、この地に大洪水と豊穡をもたらす金魚。金魚が歌う

「君の探している人は 百年前に死んでしまったかもしれない 百年後に生まれてくるのかもしれない」。

縄文から現代まで、多和田葉子が描く国立の精神地図が、くにたちの境界を超えて世界の今を見せる。

第1幕 「天満宮のお祭り」

クーニー 守谷玲音 (4/30・5/3)、横川咲希 (5/2)

金魚 吉川真澄 (ソプラノ)、渡辺ゆき (メゾソプラノ)、中嶋俊晴 (カウンターテナー)、平野太一郎 (テノール)、奥秋大樹 (バス)、北村成美 (ダンサー)

クーニーの姉 武田あやめ (4/30・5/2)、横山結 (5/3)

第3幕 「むずかしい時代」

子供 齊藤りう、塩野遼、成松こだま、橋本果音、松見安珠、守谷玲音、横川咲希

祖母 奥秋大樹 (バス)

第5幕 「あまのじゃくのおまのがわ」

ターチ(おとな) 中嶋俊晴 (カウンターテナー)

ターチ(子ども) 齊藤りう、永田那由多 (4/30・5/3)

塩野遼、松見安珠 (5/2)

クーニー 守谷玲音 (4/30・5/3)、横川咲希 (5/2)

第2幕 「ヤヤホの宿」

宿の女主人 渡辺ゆき (メゾソプラノ) / 北村成美 (ダンサー)

旅の男 平野太一郎 (テノール) / 山田宗一郎 (俳優)

旅の女 吉川真澄 (ソプラノ) / 滝本直子 (俳優)

犬婿の声 中嶋俊晴 (カウンターテナー)

柱神 伊藤美樹、永田那由多、橋本果音 /

北村成美 (ダンサー)

第4幕 「昭和の未来都市」

少女1 井田美恵子 (5/2)、空 (4/30・5/3)

少女2 武田陽子 (4/30・5/3)、

T.Torii、松沼かす美 (5/2)

少年1 池原毅和 (4/30・5/3)、佐藤和正 (5/2)

少年2 遠藤直彰 (4/30・5/3)、大岡哲 (5/2)

【 コーラス : (五十音順) 】

ソプラノ・上



浅川莊子



井田美恵子



武田あやめ



横山結



空



前川悦子



松尾美季

ソプラノ・下

アルト・上



大浦順子



栗山美奈子



T.Torii



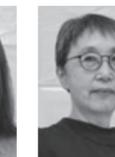
永田那由多



松沼かす美



伊藤美樹



武田陽子



棚田真理子



とりいまり

アルト・下

テノール・上



池原毅和

テノール・下



佐藤和正

バス・上



遠藤直彰

バス・下



村田雅則

バス・下



大岡哲

チルドレン



齊藤りう



塩野遼



成松こだま



橋本果音



松見安珠



守谷玲音



横川咲希

【 アンサンブル (歌わない人) 】



久保田正美



小玉陽子



斎藤明仁



鈴木恵理子



高橋由江



なかむらなおき



藤原れいあ



マイ・ウェイ



森口ありあ



守谷海音



山上あきら

【 市民スタッフ 】



井上龍達



木島史人



佐藤花音



中川鈴音



羽根田瑞希



渡部佑有

市民レポーター 伊澤文彦



いつも見ていると、特別なものには見えな
いかもしれない。多摩川、谷保天満宮、富
士見台団地、大学通り。近くにあった時に
は、別に気にとめることもなかったが、長
年離れて暮らしてきてふりかえると、社会
の変化や共に生きた人々の想いがたくさん
埋まっている。記憶を揺り起こすのは、歌
の力ではないかと思う。声と声が重なるの
は、そしてそれが耳に届くのは、なんて不思議なことだろう。ドイツで
暮らし始めてちょうど40年になる。早くパンデミックやロシアのウク
ライナ侵略が終わって又国立へ行ける日が来るのを楽しみにしている。



くにたちオペラのひらく時空は、なんとなく
懐かしいけど、どこか少しずつ狂って歪ん
で拗れて軋んで、だからこそ隠されたホン
トウがふつつつ浮かび上がる場処。コドモ
とオトナと動物と異形がざわざわ行き交う
もうひとつの国立、もうひとつの日本、も
うひとつの世界。邪（蛇）道即王道。ここ
に生きる人々がコロスとなり龍となり、風

土をはらんで天空に飛びたつ、置き換えられない響きに満ちた新しい日
本語オペラの世界へ、耳を澄ませて、目を凝らして、心を開いて、魂を
遊ばせて！



劇場の春。
人が集まり、共に語らい、共に歌い、共に
踊る。
2020年、春。ビデオ電話の向こう、平野さ
んが「あの町」へと誘う音楽を紡ぎだした。
多和田さんの「でんでこでんでん」がモジ
モジしながら踊り始めるのを見た。雨の中、
祭の準備をするレインコートの人びと。傘

をささずに歩く足音は密かに歌っている。
舟のつくり方をつくるところから始まったくにたちオペラ、
昨日と明日の間に遠くの空の音色を聴いて、いよいよ出帆、大海原へ。

多和田葉子 Yoko TAWADA

作家・詩人

ベルリン在住。国立市立国立第五小学校、第一中学校を経て、
都立立川高校、早稲田大学文学部を卒業。日本語、ドイツ語で
の創作が世界的に高く評価されている。芥川賞、野間文芸賞、
早稲田大学道通大賞のほか、2016年クライスト賞、2018年
全米図書賞受賞。高瀬アキとの音楽性に富む朗読パフォーマンス
を継続し、さいたまトリエンナーレに招聘されるなど活動は
多岐にわたる。2017年くにたち文学賞審査員に就任し地域文
化の発展に貢献。また2018年1月開催のケルン詩祭芸術監督
に就任。2019年度朝日賞受賞、2020年紫綬褒章。

平野一郎 Ichiro HIRANO

作曲家

2001年より作曲活動を本格開始、京都を拠点に日本列島の風土
や伝承に根差した創作を展開。響きや調べ、声と言葉の根源をた
ずね、失われた身体性・全人性を呼び覚ます音楽世界を志す。日
本交響楽振興財団作曲賞最上位・日本財団特別奨励賞、青山音楽
賞、京都市芸術新人賞、現音富樫賞、藤堂音楽賞、京都府文化賞
奨励賞等受賞。ISCM世界音楽の日々2008入選。2017年より出
雲芸術アカデミー・コンポーザー・インレジデンス拜命、未来の伝
統芸術を謳う「連作交響神樂」(全九部作)進行中。2019年正月
NHK8K番組《落慶～奈良・興福寺～》音楽制作。他、代表作に「モ
ノオペラ〈邪宗門〉」「四季の四部作」「八幡大縁起(はちまんだい
えんぎ)」「鱗宮(イロコノミヤ)△交響曲「厩氣樓(しんきろう)●
協奏曲」胡絃乱聲(こげらんしじょう)」「とこよのはる」等がある。

川口智子 Tomoco KAWAGUCHI

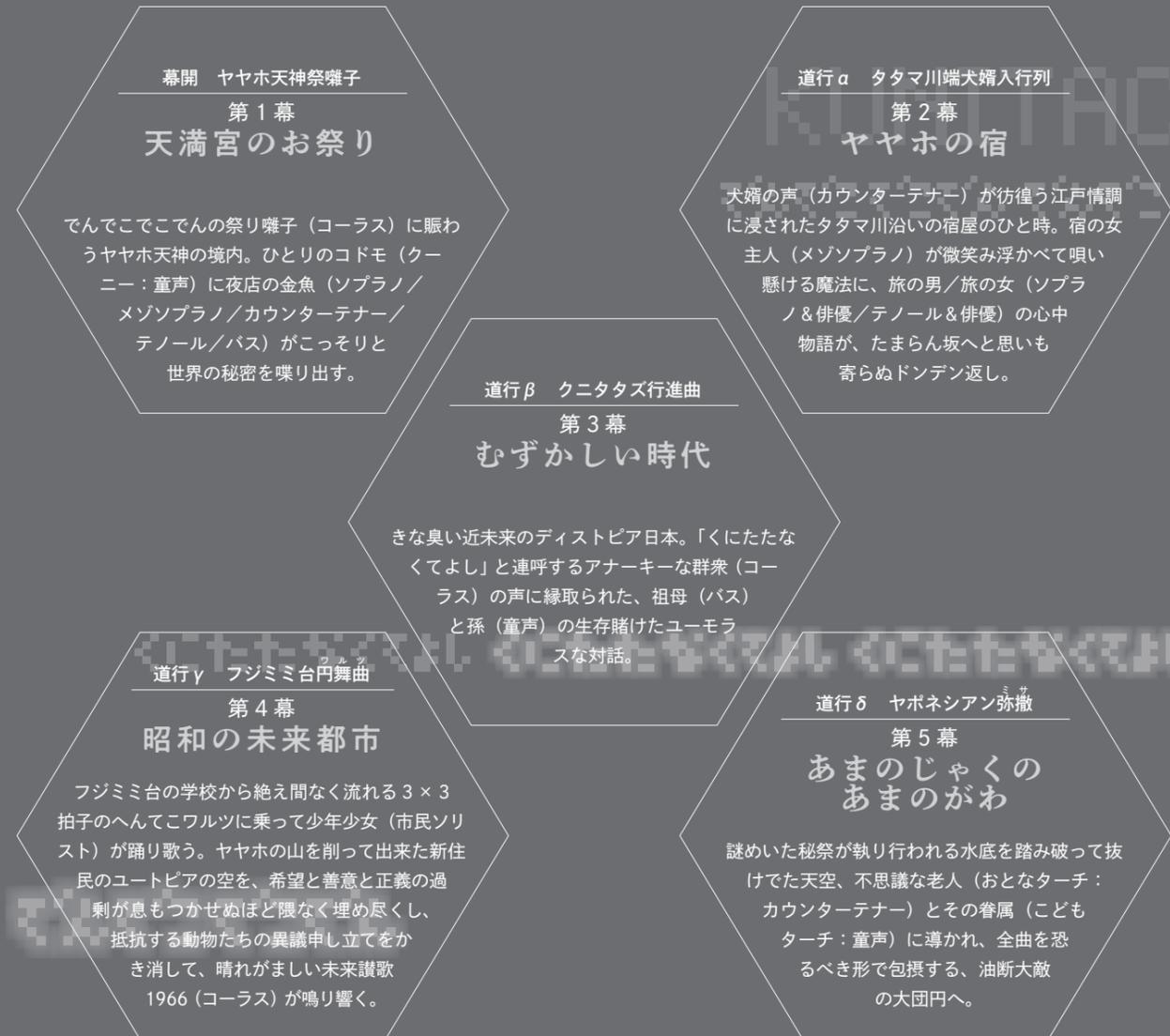
演出家

東京学芸大学大学院修了。佐藤信に師事。2008年より演出活
動を開始し、海外劇作家の翻訳上演、アジアのアーティストと
の協働作業、音楽・ダンス・伝統芸能等ジャンルを超えた創作
を多数展開。イギリスの劇作家サラ・ケインの戯曲上演に長年
取り組み、代表作のコンテンポラリー・バンク・オペラ『4時
48分 精神崩壊』(2020年初演)は、イギリス・コロネット劇
場への招へいが決まっている。そのほかの演出作品に多和田葉
子複数の私 Vol.3『動物たちのパベル』(2018年)、音楽劇『メ
ドゥーサの罟』(2016年、主催：草津夏期国際音楽アカデミー
& フェスティバル、清水寛二との共同演出)など。『多和田
葉子/ハイナー・ミュラー 演劇表象の現場』(東京外国語出
版会)、『多和田葉子の〈演劇〉を拓む』(論創社)に創作ドキュ
メントを執筆。東京学芸大学非常勤講師、立教大学大学院兼任
講師。 www.tomococafe.com

記・平野一郎

はじめは2017年の夏だったか。くにたち芸小ホールの齊藤かお
りさんが相模湖交流センターでのinc.percussion days(加藤訓子
さんプロデュース)にて上演された拙作「秋の歌」(女声:吉川真
澄さん)をお聴きになった。翌18年3月“出雲の春”にお越しに
なり、19年3月演出家・川口智子さんと連れだって再び来雲、今
度はお二人で交響神樂の初演に立ち会われた。それから程なく新作
オペラ作曲の白羽の矢が飛んできた。
同年秋、驚くほど早く届いた多和田葉子さんの台本は、それらし
いオペラのリブレットとは無縁の潔さで、役名以外はト書きもなく
声種も楽器も構成も指定なし。こちらの全てが問われる、だからこ
そ願ってもない形。何よりその溢れ弾ける言葉に出会って己の中の
音楽が待ってましたと歓喜踊躍しはじめた。
髪逆立てて貪り読んだある夜の夢の中、第一幕に登場する金魚(=
元ヨロチ)が色とりどりの多声で織り成された歌をうたいだし、こ
れは金魚のマドリガーレだ!と飛び起きてノートに「五人一役!」
と記したのを皮切りに、指揮者なしの楽隊、時を刻む打楽器群、歌
手/俳優の二人一役、どうぶつこどもシュプレヒコール、本編各幕
の導入楽とりわけ道行δの空想祭儀(呪文テキスト:川口智子さん)

など、演出家との濃密なやりとりを重ねるうちに呆れたアイデアが
次々と堰を切り、構想はひとりで膨らんでいった。
2020年、地球まるごと見えない水に浸されて日常と非日常が
ひっくり返り…静まりかえった世界を尻目に台本の言葉の海へ深海
魚になって潜り込み、毀れた星空のもと闇深き水底に光るコトダ
マオトダマをひとつまたひとつ、耳を澄ませて追いかけて追いこし、
20年末にラフスケッチ、21年秋にヴォーカルスコア、22年正月
にフルスコアを完成。全身全霊の稽古を重ね、いよいよ春も盛りを
迎えて、5人の歌手・2人の俳優・1人の舞者・9(5+4)人の楽
隊に煌めく猛者が集い、ここに生きる人々が身体ごとコロスとなっ
て、声なき声を含む聲という聲が呼び交わす瞬間を待つ。
時の番人司るオペラという装置は、バロックの言葉の通り、声の
楽園たるルネッサンスの廃墟に現れた、もとより壊れた劇場であ
る。その不可能性への挑戦を真に叶えたいわずかな傑作たちを踏まえ
つつ、現代に至る既存のオペラの纏った様々な通念を捨てて根源か
ら掘り起こし、かけがえのない風土と現在が聞き合う響きの真只中
で、音楽・言葉・舞踊・すべてが渾然一体に立ち上がるもうひとつ
の祭を目指して――生まれてきたのは…



KUNITACHI OPERA

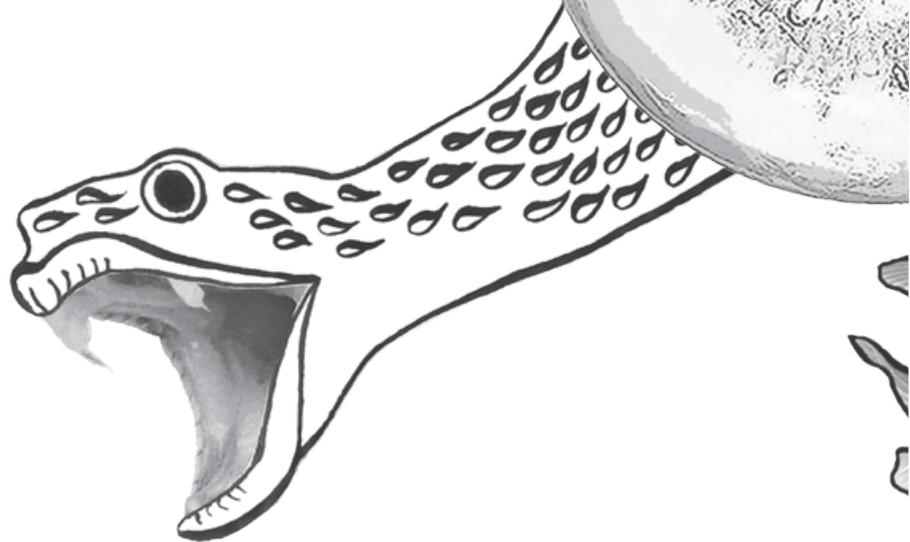
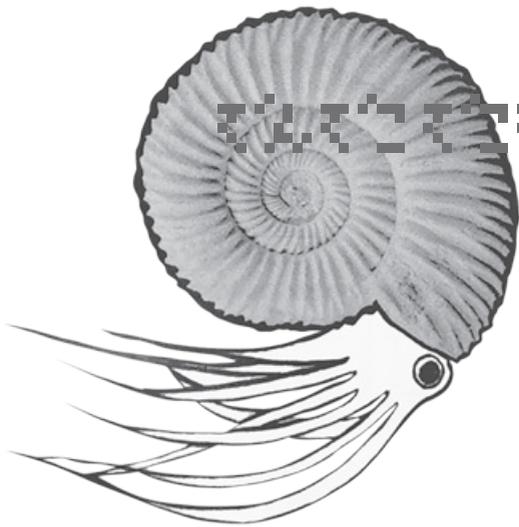


KUNITACHI OPERA

くたたち文化・スポーツ振興財団



くたたち文化・スポーツ振興財団



KUNITACHI OPERA

KUNITACHI OPERA

くたたち文化・スポーツ振興財団

主催：
公益財団法人くたたち文化・スポーツ振興財団
くたたち市民芸術小ホール

<https://kuzaidan.or.jp/hall/>

〒186-0003 東京都国立市富士見台 2-48-1

電話 042-574-1515 FAX 042-574-1513

E-mail: hall@kuzaidan.or.jp

助成申請中：(一財) サントリー音楽財団
「第 22 回佐治敬三賞」

協力：NPO 芸術文化ワークス

後援：国立市、国立市教育委員会

上演時間：およそ 120 分 + 休憩 20 分